

第3期スポーツ基本計画策定について

香川県教育委員会事務局保健体育課

1. 本県において取り組んでいるスポーツ振興に向けた取組状況・成果**(1) 体力づくりの推進**

小学生については、日常的に体を動かす機会の減少や、基本的生活習慣の乱れによる体力運動能力の低下が今日の課題となっていることから、体力づくり活動の推進に取り組んでいる。

中学校での運動部活動の実施率は高く、体力運動能力は比較的高い。一方で指導内容の高度化、専門化が課題となっていることから、指導力の向上を図る研修会を実施するなど運動部活動の充実に取り組んでいる。

(主な取り組み)

○ 体力づくり活動の推進

- ・ 望ましい体力向上の取組みを提案した「讃岐っ子元気アッププラン」を活用し、全小・中学校において毎年体力向上プランを作成
- ・ 小学校への指導者等の派遣

○ 運動部活動の充実

- ・ 中学校、高等学校における運動部活動指導者の指導力向上を図る研修の充実

(2) 生涯にわたりスポーツを楽しむことができる環境づくり

ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を実践できるよう、総合型地域スポーツクラブの育成支援や、親子や家族がそろって参加できるスポーツ教室やスポーツイベントの開催等に取り組んでいる。また、県立スポーツ施設の整備・充実を図り、県民のニーズに応じたスポーツ情報を提供するなど、スポーツに関心を持ち、活動しやすい環境づくりにも取り組んでいる。

(主な取り組み)

○ 総合型地域スポーツクラブの育成支援（現在 30 クラブ）

- ・ かがわ生涯スポーツフォーラムの開催
- ・ エキスパート派遣事業（指導者派遣）
- ・ 教育委員会のホームページや広報誌を通じた情報提供
- ・ クラブ通信の発行

- スポーツやレクリエーションを気軽に楽しむ機会の提供
 - ・ 県民スポーツ・レクリエーション祭の開催
- 地域でスポーツを支える人材の養成、活用
 - ・ 生涯スポーツ指導者養成講座
 - ・ 県スポーツ情報誌「みんなで楽しくスポーツを」の発行
- トップレベルの競技をみる機会の充実
 - ・ 香川丸亀国際ハーフマラソン大会の開催
 - ・ プロスポーツ連絡協議会への協力（施設使用料の減免など）や連携
- 県立スポーツ施設の充実
 - ・ 県立スポーツ施設の機能強化
 - 1) 指定管理者制度の導入、各種スポーツ教室の実施（各施設）
 - 2) 施設設備の修繕等
 - 3) 競技用等備品の充実
- 新県立体育馆の整備
 - ・ 競技スポーツ施設、生涯スポーツ施設、交流推進施設としての機能を併せ持つ新県立体育馆の整備を推進
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会に向けた海外チームの事前合宿受入
 - ・ ハンガリー（カヌースプリント競技）
 - ・ クロアチア（陸上競技）
- 障害者のスポーツ参加の促進及び普及啓発
 - ・ 障害者スポーツ教室の開催
 - ・ 香川県障害者スポーツ大会やチャレンジスポーツ体験会の開催

(3) トップアスリートをめざし、競技力を高めることができる環境づくり

国民体育大会などの全国大会やオリンピック・パラリンピックなどの国際大会で活躍できるトップアスリートの育成・強化に努め、競技力の向上に取り組んでいる。ジュニア期からの発掘・育成事業を通じ、全国大会での優勝や日本代表として国際大会で活躍する選手が育ってきている。

（主な取り組み）

- ジュニア期からの人材の発掘・育成
 - ・ スーパー讃岐っ子育成事業（小学4～6年生を対象に発掘育成プログラムを実施）
 - ・ かがわドリームスポーツ教室（オリンピアン等トップアスリートによるジュニア選手・指導者への指導）

- ・ 運動部活動支援事業（運動部活動における外部指導者の活用）
- ・ プロスポーツ人材活用推進事業（サッカー、バスケットボール、野球などの地域密着型プロスポーツ選手・指導者を中・高運動部活動へ派遣）
- トップアスリート育成のための支援
 - ・ 国体候補選手等の強化
 - ・ スーパーアスリート育成事業（オリンピック種目で将来性豊かな中・高校生を指定し、強化プログラムを実施）
 - ・ 東京オリンピック候補選手強化事業（バドミントン桃田賢斗選手、バスケットボール渡邊雄太選手など12名）
 - ・ 障害者スポーツ普及強化事業（選手強化事業の一環としてパラカヌー今井航一選手など5名を最上位の区分に指定し、国内外の大会参加に伴う費用の助成などを実施）
- 指導者の養成および資質の向上
 - ・ 指導者研修会や優秀コーチ招へい事業の実施

2. 本県において抱えている課題

(1) 体力づくりの推進

- 体力づくり活動の推進
 - ・ 本県の小学生の1週間の総運動時間は、全国平均と比べて少ない
 - ・ 日常的に運動をする子どもとしない子どもの二極化
- 運動部活動の充実
 - ・ 指導内容の高度化、専門化への対応
 - ・ 専門指導者のいない学校の増加
 - ・ 生徒のニーズの多様化への対応
- 地域部活動の推進
 - ・ 学校・地域・各種スポーツ団体との連携体制の構築
 - ・ 専門指導者の不足
 - ・ 平日と休日の一貫指導のための協力体制の構築

(2) 生涯にわたりスポーツを楽しむことができる環境づくり

- 総合型地域スポーツクラブの育成支援

- ・ 「登録・認証制度」導入に向けた予算および人材の確保
- ・ 地域部活動の推進に向け、受け皿となるクラブの指導者や施設の不足、クラブと学校や地域をつなぐ連携・協力体制の構築
- スポーツやレクリエーションを気軽に楽しむ（する・みる）機会の提供
 - ・ 新しい生活様式下での開催方法、参加者の確保
 - ・ 多様な事業展開のための財源確保
- 県立スポーツ施設の活用
 - ・ 施設設備の計画的な修繕等のための財源確保
 - ・ 競技用等備品の計画的な更新のための財源確保
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会に向けた海外チームの事前合宿受入
 - ・ 新型コロナウイルス感染症対策
- 障害者のスポーツ参加の促進及び普及啓発
 - ・ 障害特性に配慮した新しい生活様式下での開催方法、参加者の確保
 - ・ 多様な事業展開のための財源確保

(3) トップアスリートをめざし、競技力を高めることができる環境づくり

- ジュニア期からの人材の発掘・育成、トップアスリート育成のための支援
 - ・ 一貫指導体制の継続・推進のための優秀な指導者の確保
 - ・ 中央競技団体との連携の強化
- 指導者の養成および資質の向上
 - ・ 若手指導者の育成・確保
 - ・ 競技者のニーズと適切な指導者とのマッチング

3. 第3期計画において期待すること

(1) 体力づくりの推進

- 子どもの体力向上施策の推進
 - ・ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会の開催を好機ととらえ、開催後も運動習慣が定着し、体力向上が図れる施策の推進
- 環境整備
 - ・ 子どもたちが、楽しんで運動することのできる場所の確保や指導員等の充実

○ 運動部活動の地域移行の推進

- ・ 地域で運動部活動を支える体制づくりへの支援

(2) 生涯にわたりスポーツを楽しむことができる環境づくり

○ 総合型地域スポーツクラブへの支援

- ・ 地方にあるクラブの運営には都市部と比較して指導者の確保や施設の充実など地方特有の課題が多いことから、これらの負担を和らげるための施策
- ・ 令和4年度から運用開始される総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度を推進するための体制づくりへの支援

○ ライフステージに応じたスポーツ活動に取り組める環境整備

- ・ スポーツ振興くじ助成金を受け、多様な事業を展開できるよう、支援対象の拡大、支援条件の緩和
- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック大会開催を機に、高まっているスポーツへの関心を維持・継続し、スポーツに取り組む機運を醸成するための新たなキャンペーン実施や、スポーツに取り組みやすい環境づくりの一層の推進

○ スポーツ施設の充実や機能強化に対する国の支援

- ・ レベルの高い試合を身近に観戦できる環境や、新たな競技大会を開催できる環境を整えるため、県立スポーツ施設の充実や機能強化に対する国の支援

○ 障害者スポーツに対する国の支援

- ・ 障害者スポーツの普及啓発や理解促進及び参加型スポーツの振興を図るために、県が安定的かつ積極的に施策展開を行えるよう必要かつ十分な国の支援

(3) トップアスリートをめざし、競技力を高めることができる環境づくり

○ 競技力向上事業への支援

- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けた国全体での競技力向上の取組みを、今後も維持・継承できる持続可能な体制の構築
- ・ 都道府県が実施する競技力向上対策を維持・推進していくための国の支援
- ・ 都道府県が実施するタレント発掘・育成事業の推進や一貫指導体制の充実、指導者不足の解決等のため、中央団体からの指導者派遣や情報提供など多面的なサポート体制の強化

○ 地方における施設の充実

- ・ 国の競技力向上の中核拠点であるハイパフォーマンススポーツセンターのような施設を地方でも整備すること